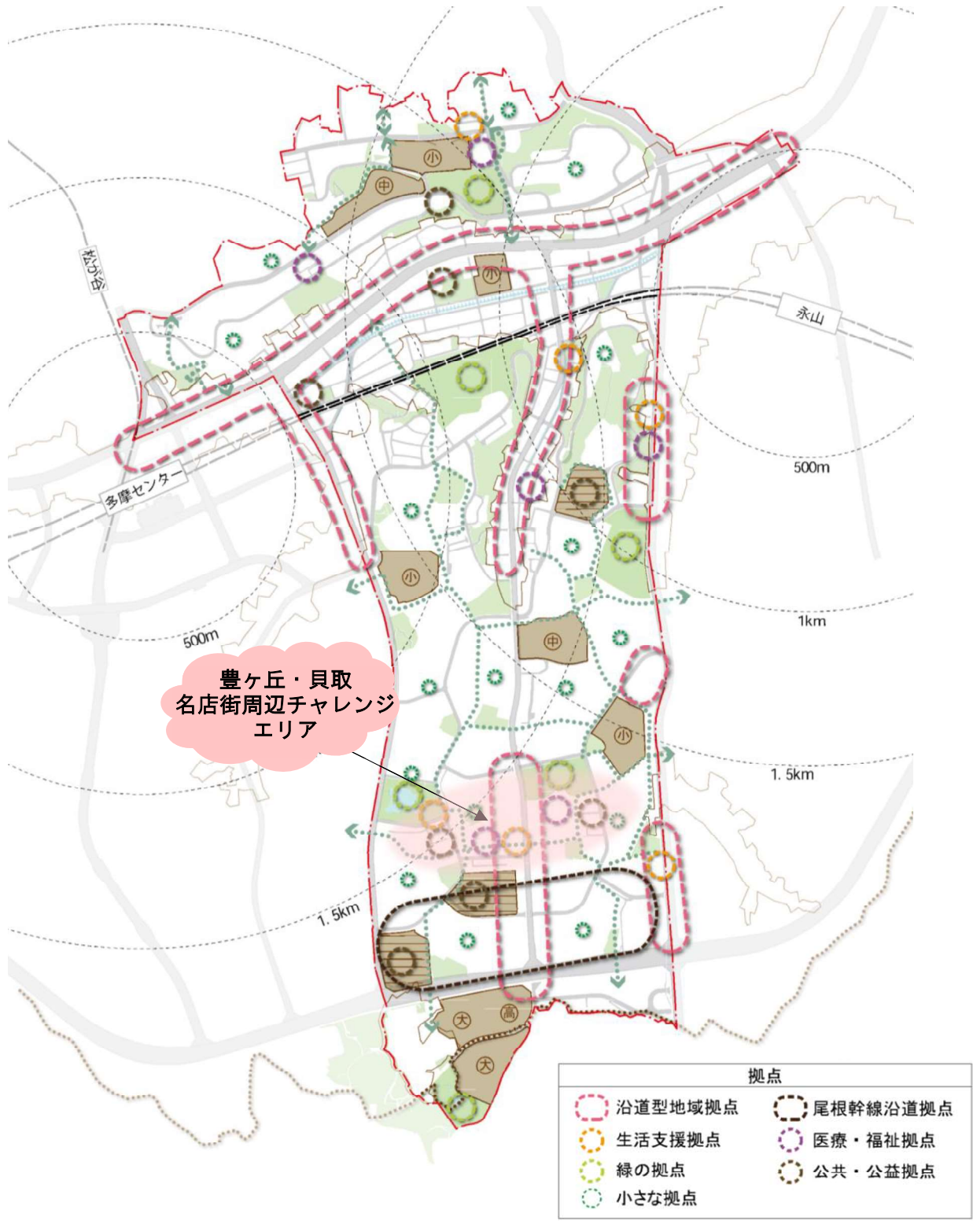


## (9) プロジェクトの展開イメージ

まちづくりの実現にむけた「小さなアクション」を実践する場として、「既存の拠点」が集積し、「コミュニティ形成の場としての活用」の動きが見られる「豊ヶ丘・貝取名店街」周辺を「チャレンジエリア」と設定し、地域の課題解決に資するような、「近隣センター」や「公園・遊歩道」などを活用したプロジェクトの実証実験を市民とともに展開します。



### 近隣センター活性化イメージ

店舗の軒先や屋外空間の新たな使い方や柔軟な活用方法について、参考事例をもとに、地域の利用ニーズを引き出します。



### 公園活用イメージ

マルシェやキッチンカーなどの出店によるイベントの開催や、屋外空間活用の利用ニーズの引き出しを図ります。



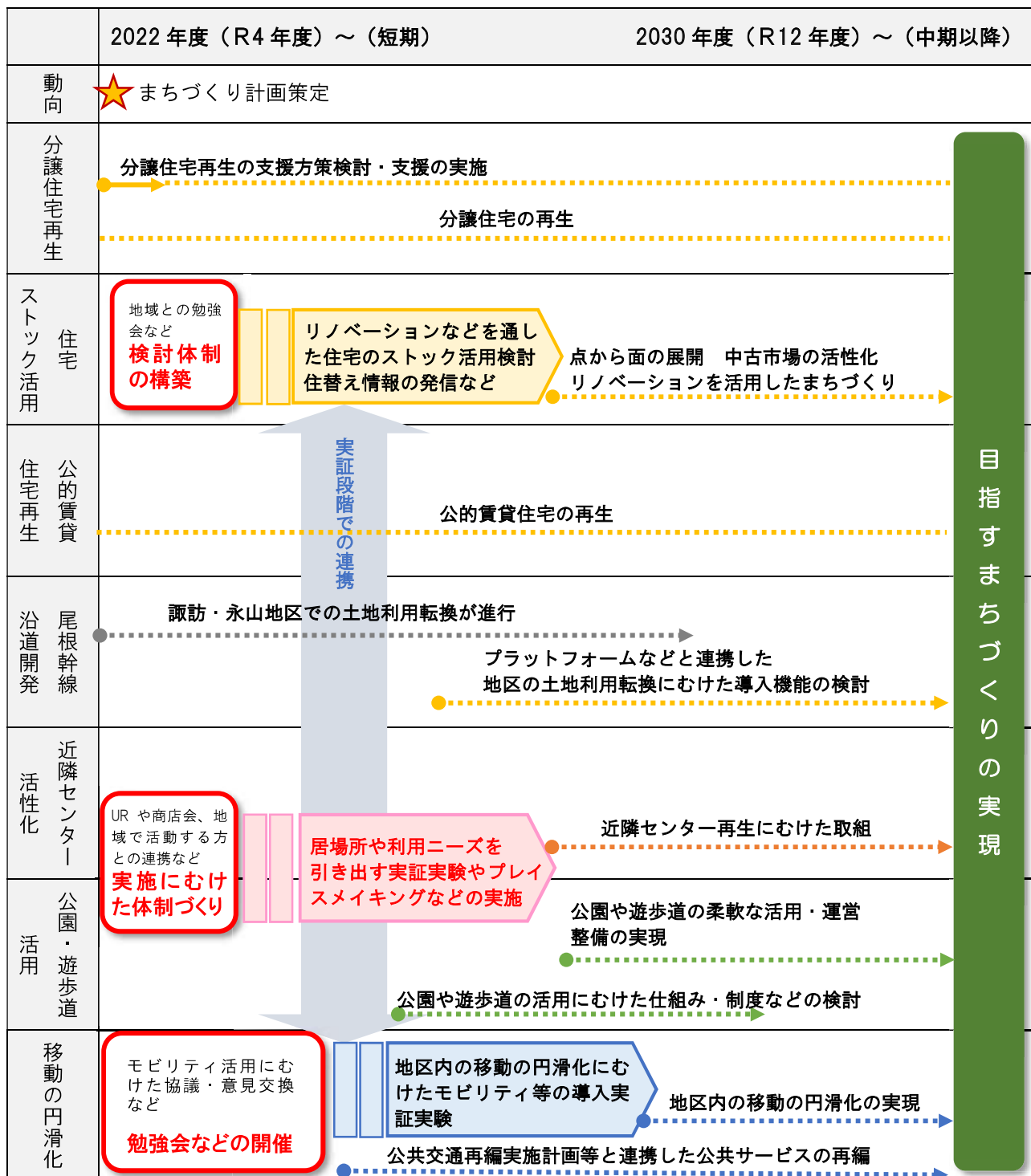
### 遊歩道活用イメージ

心地の良い歩行空間を形成するとともに、グリーンスローモビリティなどの運行を実証実験することで、ラストワンマイル支援を目的とした、効果的な運用・利用ニーズを探ります。



## 5 想定スケジュール

地区のまちづくりの実現に向けては、リーディングプロジェクトを早期に動かすことで、各プロジェクトが関連しながら、段階的な推進を図ります。そのため、短期（2030年頃まで）はプロジェクトの展開イメージのようなプレーヤー探しや機運醸成を図るイベント・実証を行うとともに、庁内や関係者との調整を進めます。中期以降（2030年～）は短期の実証や取組の方向性を踏まえ、事業を推進していく事を想定します。





## 6 推進にむけた行政支援

### (1) リーディングプロジェクト推進にむけた支援

リーディングプロジェクトの推進にむけ、下記のような段階に応じた行政支援を検討します。

#### **STEP 1：プロジェクトの取組主体となる組織の立ち上げ**

リーディングプロジェクトの実現に向けては、行政をはじめとし、地域住民・権利者・事業者や学校など様々な主体が連携した取組が重要です。しかし、市内には多様な市民・関連団体などが存在していますが、事業者や行政などと協働できる場は少ない状況にあります。

本計画のリーディングプロジェクトでは、まず初めに地域に関係する各関係者が課題を共有し、議論を行う勉強会などの場を設けることで、地域資源である市民との協働によるプロジェクトの推進を図ります。その際、市は組織立ち上げに向けた場や調整などの後援支援を行うものとしします。

#### **STEP 2：リーディングプロジェクトにおけるプロジェクトの進行管理・コーディネート**

本計画のプロジェクトは、短期的な実践の積み重ねによる 2040 年代のまちづくりの実現を見定めています。そのため、早期に展開できる短期的な実践においては、PDCA サイクルなどを活用し各取組における目標を設定します。

各プロジェクトにおける目標設定は、主体組織が取組内容に応じ設定しますが、サイクル全体の進捗管理においては、再生推進会議等と連携することで、状況に応じた適切な支援・助言や調整などのコーディネートを行うものとしします。

#### **STEP 3：具体化するプロジェクトの推進を図る制度化・規制緩和などの検討支援**

STEP 2において設定した目標に対し一定の成果が出たプロジェクトに関しては、深度化を図り、具体的な事業化なども含め検討を行うこととなります。

その際、実証実験などを通じ顕在化した課題に関して、制度化や規制緩和などの市の後援により課題解決ができるものに関しては、協力し実現に向けた協議・検討等を進めることとしします。

### (2) まちづくりの更なる推進にむけた仕組みの構築

(1) リーディングプロジェクトの推進とあわせ、事業者と地域で活動する方との共創による地域課題を解決する場としてのプラットフォームなどを構築することで、市民が参画しながら持続可能なまちづくりを実施する支援を行います。